

(4)阿蘇地域における地下水涵養の推進(環境立県推進課)

- ・阿蘇地域の草原等が水源涵養に果たす役割に着目し、企業や自治体、住民等の流域の受益者が阿蘇の草原等を維持する活動を支援するため、(公財)阿蘇グリーンストックと連携し、新たに「九州の水を育む阿蘇の守り手基金」を設置、令和7年8月1日から寄附(草原)の受入れを開始。寄附募集のPR等を実施。
- ・現時点(令和8年3月18日時点)で5,743千円の寄附が集まっており、県及び関係市町村からなる配分検討委員会において、具体的な使途・配分方法等を決定。
- ・寄附の貢献度については、貢献度評価検討委員会において検討を行い、草原に係る貢献度評価指標を設定。

貢献度評価検討委員会

- (委員長) 嶋田 純 熊本大学名誉教授
- (委員) 蔵治 光一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
- (委員) 高橋 佳孝 阿蘇草原再生協議会会長
- (委員) 細野 高啓 熊本大学大学院先端科学研究部教授

貢献証書のイメージ

寄附による「貢献度(水源涵養量)」を中心に、「寄附によって維持される草原の面積」や草原の保全と地下水の関連性等、ほか水源涵養以外の要素に対する貢献についても記載。

- ・既往の調査結果や水循環モデルの推計結果等を用いて、「寄附額に応じて維持される草原の面積(m²/万円)」と「草原の単位面積あたりの年間の水源涵養量(m³/m²)」を設定する。

寄附額に応じて維持される草原の面積(m²/万円)
 × 単位面積あたりの年間の水源涵養量(m³/m²) =
 1,564(m²/万円) × 1.64(m³/m²) = **2,564m³/万円** ★

25mプール7杯分の量に相当



<令和8年度>

- ・寄附の充実に向け、県及び関係市町村で連携してPR等を継続。
- ・水田、森林への支援拡充に向け、水源涵養への貢献度を評価する指標を整備。